

「金額の程度が大きいことを表す」形容詞について

蕭 惠 文

一 はじめに

現代日本語形容詞（本稿においては形容詞活用語も「形容詞」と称する）において、「程度が大きいことを表す」意味を持つ形容詞や、「程度が大きいことを表す」意味に派生する形容詞はいくつかあるが、その中で複数の形容詞が同一の語句を修飾し、被修飾語句の「程度が大きいことを表す」ものがある^①。本稿では、被修飾語「金額」の程度が大きいことを表すのに使われる形容詞を中心に、その差異について分析する。

まず、規範的な日本語で書かれていると考えられる新聞社の記事データベースを利用し、「金額」の大きいことを表すのに使われている形容詞を収集する。新聞社のデータベースは、読売新聞『ヨミダス歴史館』、朝日新聞『聞蔵Ⅱビジュアル』、毎日新聞『毎索』^②を利用する。検索結果より、現代日本語において「金額の程度が大きいことを表す」形容詞は「いたい」「いちじるしい」「えらい」「どえらい」「おそろしい」「きつい」「すごい」「すさまじ

い」「すばらしい」「ものすごい」「はかりしれない」「とてつもない」「とほうもない」「とんでもない」が使われていた。用例数は以下の表1のようになる（空欄は用例なし^③）。

表1

	読売	朝日	毎日	計
いたい		3	1	4
いちじるしい		1		1
えらい		2		2
どえらい		1		1
おそろしい	1	2		3
きつい			1	1
すごい	8	34	20	62
すさまじい		1		1
すばらしい	1			1
ものすごい	4	11	8	23
はかりしれない		1	1	2
とてつもない	8	16	8	32
とほうもない	14	33	26	73
とんでもない	10	15	8	33

これらの形容詞の中では、特に「すごい」「とほうもない」が使われており、次に「ものすごい」「とてつもない」「とんでもない」も少数ながら使われていることが見てとれる。他の形容詞は用例数が著しく少ない。以上のことを踏まえ、本稿においては「金額の程度が大きいことを表す意味」を持つ形容詞の中で、用例が比較的多い「すごい」「ものすごい」「とてつもない」「とほうもない」「とんでもない」を中心に、それぞれの使用傾向や差異などを明らかにする。

二 文体から見る形容詞の使用傾向

新聞社三紙の調査によって得られた用例について、それぞれの用例が使われているところの文体は以下のように分類できる（本分類は筆者が従来導入してきたものである。拙稿（2020）を参照されたい）。

〔A〕投書、〔B〕インタビュー・Q&A・座談会など、

〔C〕ニュースや記事内の「」（会話引用）、〔D〕ニュース・記事

〔A〕投書』は読者からの投稿で口頭表現が出やすく、規範的に書かれている。〔D〕ニュース・記事』とは位相が異なり得る。〔B〕

インタビュー・Q&A・座談会など』は、インタビューの発した言語表現が、記事内容に生かされやすいと考えられる。〔C〕ニュースや記事内の「」（会話引用）は、〔A〕〔B〕以外の「ニュースや記事」の文章の中に引用符を付し、会話をそのまま引用している部分である。〔B〕と同じく、発話者の表現が現出しやすいことをふまえての分類である。〔D〕ニュース・記事』は、〔A〕〔B〕〔C〕

以外のものであり、各社の規範的な日本語が表れやすいと考えられる記事である。とりあげる形容詞の用例についてこれらの文体で分類したものは次の表2のようになる。

表2

	D	A	B	C	B + C
「いたい金額」	1	3			0
「いちじるしい金額」			1		1
「えらい金額」			2		2
「どえらい金額」	1				0
「おそろしい金額」	2	1			0
「きつい金額」		1			0
「すごい金額」	8	8	31	15	46
「すさまじい金額」		1			0
「すばらしい金額」			1		1
「ものすごい金額」	13	3	3	4	7
「はかりしれない金額」	1	1			0
「とてつもない金額」	15	11	5	1	6
「とほうもない金額」	45	7	20	1	21
「とんでもない金額」	11	5	4	13	17

金額」「いたい金額」「いちじるしい金額」「きつい金額」「すごい金額」「すさまじい金額」「すばらしい金額」「おそろしい金額」「はかりしれない金額」「とてつもない金額」「とほうもない金額」「とんでもない金額」

らしい金額」「はかりしれない金額」の文体別の使用傾向については、用例数が少ないため傾向を判断するには至らなかった。

「すごい金額」の文体別の使用傾向については、表の通り全用例62例のうち、**A**に8例(12・9%)、**B**に31例(50%)、**C**に15例(24・1%)、**D**に8例(12・9%)があり、**B**と**C**を合わせた会話的な文体には46例(74・2%)がある。「すごい金額」は会話的な文体に用いられやすいことが分かり、「金額の程度が大きいことを表す」意味での「すごい」は口頭語的な語の性質が強いと見てとれる。

「ものすごい金額」の文体別の使用傾向については、全23例のうち、**A**に3例(13%)、**B**に3例(13%)、**C**に4例(17・4%)、**D**に13例(56・5%)がある。**B**と**C**を合わせた会話的な文体に7例(30・4%)がある。「ものすごい金額」が最も多く使われている文体は**D**であり、「金額の程度が大きいことを表す」意味での「ものすごい」は文章語的な語の性質が比較的強いと見てとれる。

「とてつもない金額」の文体別の使用傾向については、全32例のうち、**A**11例(34・4%)、**B**に5例(15・6%)、**C**に1例(3・1%)、**D**に15例(46・9%)がある。**B**と**C**を合わせた会話的な文体に6例(18・8%)がある。「とてつもない金額」が最も多く使われている文体は文章語的な文体**D**であり、次に多く使われている文体は投書であることが分かった。「金額の程度が大きいことを表す」意味での「とてつもない」は、文章語的な語の性質が比較的強いと見てとれる。

「とほうもない金額」の文体別の使用傾向については、全73例

のうち、**A**に7例(9・6%)、**B**に20例(27・4%)、**C**に7例(1・4%)、**D**に45例(61・6%)がある。**B**と**C**を合わせた会話的な文体に21例(28・8%)がある。「とほうもない金額」が最も多く使われている文体は**D**であり、次いで会話的な文体で使われていた。「金額の程度が大きいことを表す」意味での「とほうもない」は、文章語的な語の性質が比較的強いと見てとれる。

「とんでもない金額」については、全33例のうち、**A**に5例(15・1%)、**B**に4例(12・1%)、**C**に13例(39・4%)、**D**に11例(33・3%)がある。**B**と**C**を合わせた会話的な文体が17例(51・5%)見られ、「金額の程度が大きいことを表す」意味での「とんでもない」は口頭語的な語の性質が比較的強いと見てとれる。

各文体から「形容詞+金額」の使用傾向を見ると、**A**に最も多く使われているのは「とてつもない金額(34・4%)」である。**B**と**C**を合わせた会話的な文体に最も多く使われているのは「すごい金額(74・2%)」であり、次に多く使われているのは「とんでもない金額(51・5%)」である。**D**という文章語的な文体に最も多く使われているのは「とほうもない金額(61・6%)」であり、次いで「ものすごい金額(56・5%)」である。

以上の考察結果を総合的に見ると、会話的な文体に最も多く使われているのは「すごい金額」であり、「すごい金額」が最も多く使われている文体も会話的な文体であることから、「すごい金額」は口頭語的な語の性質が強いと見てとれる。「とんでもない金額」は会話的な文体に二番目に多く使われているが、「とんでもない金額」が最も多く使われている文体は会話的な文体であ

り、会話的な文体で「とんでもない金額」の半分以上の使用率を占めていることから、「とんでもない金額」は口頭語的な語の性質が比較的強いと判断してもよいであろう。

文章的な文体である[D]で最も多く使われているのは「とほうもない金額」であり、「とほうもない金額」が最も多く使われている文体も文章的な文体であることから、「とほうもない金額」は文章語の性質が強いと推測される。また、[D]で二番目に多く使われている「ものすごい金額」も、最も多く使われている文体が文章語的な文体であることから、文章語の性質が比較的強いと推測される。

「とてつもない金額」については、[A]の文体に最も多く使われているのは「とてつもない金額」であるが、「とてつもない金額」が最も多く使われている文体は[D]であり、しかも半数近くの使用率を占めていることから、「とてつもない金額」も文章語的性質が比較的強いと推測される。

つまり、「金額の程度が大きいことを表す」意味合いで口頭語的性質が比較的強いのは「すごい」「とんでもない」であり、文章語的性質が比較的強いのは「とほうもない」「ものすごい」「とてつもない」であると見てとれる。

三 文脈から見る形容詞の差異

前節で見た用例について、それぞれにおける「形容詞＋金額」の前後に使われている語句や共起する文脈によって、「金額の程度が大きいことを表す」形容詞の使用傾向や差異などについて考

察する。

まず、「形容詞＋金額」の後ろに「[]になる（活用形を含む）」や「[]となる（同）」が来るものや、「[]すれば「形容詞＋金額」という文脈は、その用例に「推定」の意味合いが読みとれるため、これらは〈推定の文脈〉に分類される。

「形容詞＋金額」の前後に「[]になる（活用形を含む）」や「[]なる（活用形を含む）」が使われず、「形容詞＋金額」の前に「[]で見たら」「[]では」「[]を基準に考え」と「[]と比べれば」「[]から見れば」などのような文脈があるもの、「[]から見ても」「[]には」「[]にとって」「[]にしては」「[]としては」や、「[]の時世で」「[]当時（で）／では／は」「[]の頃の[]は」「[]の時の[]は」などのような文脈があるものは、用例のそれぞれからある基準においては金額の程度が大きい⁵の意味合いが読みとれるため、これらのものは〈ある基準においては金額の程度が大きい文脈〉に分類される⁵。「形容詞＋金額」の前に「[]金額の数字」という（の）は」がある文脈は、〈金額の数字イコール金額の程度が大きいこと〉の文脈に分類される。「形容詞＋金額」の後ろに助詞の「が」「の」「を」「は」が来るものは、「形容詞＋金額」が一語かのように代名詞的に使われていると読みとれるため、〈形容詞＋金額〉が代名詞的に使われる文脈に分類される。また、「形容詞＋金額」の後ろに「[]に関する」が共起する用例も〈形容詞＋金額〉が代名詞的に使われる文脈に分類される。「形容詞＋金額」(＝会話引用)、「形容詞＋金額」(＝一文)、「形容詞＋金額」と感慨深げ。「(会話的な文体において) []形容詞＋金額」だ／です(同じ意味・機能を持つ助動詞も含む)(活用形を

含む」などのようなもの、および「文脈の特徴が見られないもの」の一部は、それぞれの用例においてその「形容詞＋金額」が感想などを表す一言として使われていると読みとれるため、〈形容詞＋金額〉が感想的・コメント的に使われる文脈」に分類される。

次の三二一から三二五では、それぞれ分類した〈文脈〉について考察する。各〈文脈〉の項の最初に、まず一部の用例を示すが、文に不足がある場合には「注：」を付けて補足説明する。

三二一 〈推定の文脈〉

〈推定の文脈〉に分類されるものには次のようなものがある。

・ すぐれば「形容詞＋金額」

新進がカナダの食品会社と合同で、大豆加工品の製造販売をする「新進イープス」を立ち上げたのは、02年10月。ターゲットは、食の安全を求める親やカロリーを気遣う中高年の男女などだ。「需要は消費者の2%程度かもしれないが、浸透すればすごい金額」と平田豊社長(49)。

(朝日新聞 2004・01・05)

・ すら「形容詞＋金額」になる

三重県警は13日、商標法違反の疑いで押収した751点の偽ブランド商品を伊勢署で報道陣に公開した(中略)「これが本物なら、すごい金額になる」と捜査員。

(朝日新聞 2002・12・14)

携帯電話は「第三世代」と呼ばれるブロードバンド(高速大

容量の通信)に移行しつつある。(中略)技術が進歩して画面が高精細になり、映像が鮮明になれば、そこに含まれるデータの量は大きくなる。普通の料金体系なら、ものすごい金額になる。

・ くら「形容詞＋金額」になる

「うちは子供3人。子ども手当が実現したら、すごい金額になる。国の財政が破綻(はたん)しちゃいますよ」

(読売新聞 2009・08・11)

・ ぐだと「形容詞＋金額」になる

担当する泉観光情報発信チームでは、メンバーがコンテを描いてアイデアなどを出し合ったりしたが、「その通りだと」「注：コストが」とんでもない金額になってしまった」という。

(朝日新聞 2001・12・06)

・ ぐすると「形容詞＋金額」になる

今高齢者にかかっている金額×これから高齢者の人数で出てくる金額をそのまま、将来の働き手で割り算すると、年収の3分の1も取り上げるとんでもない金額になると国民を脅す。

(毎日新聞 2001・01・09)

・ ぐできれば「形容詞＋金額」になる

全国の温泉地の旅館とネットを通じて取引できれば、「注：利益が」とんでもない金額になると思うよ。

(朝日新聞 2004・10・13)

・ ぐを考えれば「形容詞＋金額」になる／となる、

ぐを考えると「形容詞＋金額」になる／となる

公費乱脈事件に先立って問題となった大阪府水道部の架空接

待を裁判の場で問うた「市民オンブズマン」の代表委員、熊野実夫さん（七二）も「明らかにになった食糧費はごく一部で、全体を考えるとんでもない金額になる」と調査の意義を認める。

〔形容詞＋金額〕 になる／ になっている／ になって

今度の衆院選挙に一体、どのくらいカネがかかるのだろうか。公営選挙のために使われる政府の経費はざっと700億円。それに各政党の選挙資金、各候補者のカネを加えると、ものすごい金額になる。
 （毎日新聞 1996・10・03）
 私が知る限り指定店はこの10年間変わらない。長女が通う高校以外に近隣の多くの小中高校の制服や体操服、上靴なども扱っている。制服の売り上げだけでもすごい金額になる。

（朝日新聞 2010・05・10）

〔形容詞＋金額〕 となる

スターリン時代に工事が開始され、その後中止となったサハリンとロシア本土を結ぶタタール海峡（間宮海峡）の海底トンネル建設計画が再浮上している。財政問題に悩まされているロシアにとっては実現性はないとの批判もある。海底トンネルの建設計画が中止となったあと、ロシア本土とサハリン島の間では、10隻の連絡船がワニノ港とホルムスク（旧真岡）を中心に行き来し、物資搬運を担ってきた。ところが、その連絡船の寿命は25年。現在は4隻が残っているだけで、新船建造が急務になってきた。1隻あたりの建造費は300万（500万ドルで、さらにワニノ、ホルムスク両港の改修工事に200万ドル、ワニノ港とコムソモリスクナアムレー間の

鉄道改修および途中のクズネツキー・トンネルの再建工事を加えると、途方もない金額となる。

（毎日新聞 2000・02・10）
 〈推定の文脈〉に使われている「形容詞＋金額」の用例がそれぞれの「形容詞＋金額」の全ての用例の中で占める割合については、表3のようにまとめることができる。

表3

	とんでもない金額	とほうもない金額	とてつもない金額	ものすごい金額	すごい金額
全用例数	33	73	32	23	62
〈推定の文脈〉 用例数	10	7	1	6	9
割合（％） ^①	30・3％	9・6％	3・1％	26・1％	14・5％

〈推定の文脈〉に使われている用例の割合が最も著しいのは「とんでもない金額」、次いで「ものすごい金額」である。〈推定の文脈〉に使われているのが「とんでもない金額」の一つの特徴として指摘できよう。

三二一 〈ある基準においては金額の程度が大きい文脈〉

〈ある基準においては金額の程度が大きい文脈〉に分類されるものには次のようなものがある。

逆に日産ディーゼルの買収を基準に考えると、十億ドルとか何十億ドルというのはとてもない金額に思えてくる。

(読売新聞 1998・05・16)

調査した結果、まず驚くのは、中国人観光客の羽振りのよさ。上のグラフのように10万円以上の予算は当たり前だ。(中略)北京市民の平均月収は約4万〜5万円程度といわれるから、途方もない金額だ。

(朝日新聞 2008・03・14)

〔注：ジャワ地震復興の募金額に対して〕総額470万円が集まった。極端な例では、日給70円なんて職業もある国だから途方もない金額であることは間違いない。

(朝日新聞 2006・10・06)

すったもんだの末、支給が始まった定額給付金。1人1万2千円だが、(中略)長男〔注：小学3年〕は最近、「友だちは4人兄弟やから、あの家は10万円を超える」とほかの家庭の計算をするという。「普段は10円、20円の世界だから2万円はとてつもない金額。頭の中で楽しんでるようです」

(朝日新聞 2009・04・15)

「たとえば、チャゲと飛鳥が一人一千万円ずつ寄付をして合計二千万になれば、個人としてはすごい金額でしょうが全体から見ればほんの小さいことなんです。それより、日本人全員がひとり十円寄付すれば、十二億円になる。(後略)」

(毎日新聞 1993・11・03)

朝は九時半にバチンコ店に直行し、夜はバチンコ店の蛍の光で帰宅する日々が続くようになりました。でも、やりつくさせてみせようと主人ともども決心しました。(中略)良寛〔注：その人の息子の名前〕名義の貯金帳と印鑑を渡し、好きにさせました。十六歳にしてはとてつもない金額のほす

すが、もののみごとに使いきり、ごみ箱に通帳が捨ててあったときはさすがに涙が出ました。

(朝日新聞 1994・04・05)

連合審査会の会場には多くの市民が傍聴に訪れた。

鹿児島市の主婦、中村麻矢さん(39)と田室佐知子さん

(38)は「1億円(という予算案)は主婦には途方もない金額だが、(中略)」と話していた。

(毎日新聞 2013・06・25)

〔注：社長の年収に対して〕年金生活者にとつてはうらやましくもあり、とてつもない金額で想像できない。

(毎日新聞 2011・08・05)

〔注：カラ出張に使った県全体の予算の〕十二億円は、住民から見ればものすごい金額です。しかし、七千億円を超える県全体の予算から見ればごく一部でもある。

(朝日新聞 1996・11・10)

71年に開きましたが、客単価2万〜3万のフレンチレストラン。当時すごい金額でしたからお客さんは入らず、調理場ですよげていました。

(朝日新聞 2019・08・09)

神戸大法学部在学中に、NHKの台本募集に応募、漫才の台本が入選した。

「賞金は確か、5万円。当時はすごい金額でした。アルバイトのつもりでいろんな懸賞に応募していたら、いつのまにかこの世界に入っていたんです」

(朝日新聞 2010・08・06)

それにしても、昭和四〇年頃の二〇〇万円は、途方もない

金額だった。

(毎日新聞 1992・01・28)

〈ある基準においては金額の程度が大きい文脈〉に使われている「形容詞＋金額」の用例がそれぞれの「形容詞＋金額」の全用例の中で占める割合については、表4のようにまとめることができる。

表4

	とんでもない金額	とほうもない金額	とてつもない金額	ものすごい金額	すごい金額
全用例数	33	73	32	23	62
〈ある基準においては金額の程度が大きい文脈〉の用例数	3	12	8	4	6
割合(%) ¹²⁾	9・1%	16・4%	25・0%	17・4%	9・7%

〈ある基準においては金額の程度が大きい文脈〉に使われている用例の割合が最も著しいのは「とてつもない金額」であり、とてつもない金額の用例の4分の1程度が〈ある基準においては金額の程度が大きい文脈〉に使われていることが分かった。つまり、〈ある基準においては金額の程度が大きい文脈〉を表す文脈と最も共起しやすいのは「とてつもない金額」であり、この文脈で使われるのが「とてつもない金額」の一つの特徴として指摘できよう。

三三三 〈金額の数字イコール金額の程度が大きいこと〉の文脈

「金額の数字」という(のは)「形容詞＋金額」という形で使われており、〈金額の数字イコール金額の程度が大きいこと〉の文脈に分類されるものには次のようなものがある。

米マイクロソフト(MS)が、米ヤフーに対し、総額446億円ドル(約4兆8千億円)という途方もない金額で買収を提案した。
(朝日新聞 2008・02・21)

実際に福井俊彦日銀総裁は、03年3月の総裁就任直後から、金融機関が決済のために日銀に積み上げる当座預金残高目標を30兆〜35兆円という途方もない金額まで引き上げました。
(毎日新聞 2006・04・18)

本分類の用例がそれぞれの「形容詞＋金額」の全ての用例の中で占める割合については、表5のようにまとめることができる。

表5

	とんでもない金額	とほうもない金額	とてつもない金額	ものすごい金額	すごい金額
全用例数	33	73	32	23	62
〈金額の数字イコール金額の程度が大きいこと〉の文脈の用例数	3	12	6	0	5
割合(%) ¹³⁾	9・1%	16・4%	18・8%	0%	8・1%

表6

	金額を表す対象	金額の数字【単位】
すごい金額	寄付額	120 億円【億】
	学校のバザーの益金	60 万以上【万】
	ある議員が隠した税金	28 億円【億】
	三重県県政の巨額の不正支出	10 億円【億】
	秋田県佐佐木知事の退職金	2 億 3000 万【億】
とてつもない金額	09 年度の国の新規国債	40 兆円【兆】
	国民一人当たりの公債費負担額	300 万円【万】
	アクションライン佐川急便事件	5 億円【億】
	三億円強奪事件	3 億円【億】
	2002 年の 6 月議会で提案された山本寛斎氏のイベントに使う予算	15 億円【億】
	三億円強奪事件	3 億円【億】
とほうもない金額	土地売買に関する会話に出た金額の	「30 億」「50 億」【億】
	クリーンエネルギー開発技術にかかる費用（の合計）	10.4 兆円【兆】
	あるサッカー選手を引き抜く移籍金額	8 千万ユーロ≒ 110 億円【億】
	米マイクロソフト（MS）対米ヤフーの買収金額	446 億ドル≒ 4 兆 8 千億円【兆】
	映画「ヒロシマ」の制作費	20 億円【億】
	2000 年二月末期の有利子負債の総額	2 兆 1008 億円【兆】
	多国籍軍を支援するための補正予算	90 億ドル≒ 1 兆 2000 億円【兆】
	債券市場の月間売買高	300 兆円台【兆】
	2017 年 9 月末時点での国の借金総額 [注：1080 兆円] の国民 1 人当たり	約 852 万円【万】
	日銀総裁が設定した日銀に積み上げる当座預金残高目標	30 兆～35 兆円【兆】
	ワラント債を中心とするマネーゲームで六年間で生み出した取引の総額	38 億ポンド≒ 7600 億円【億】
	大和銀行ニューヨーク支店の囑託行員が穴埋めに有価証券を売却した損害	1100 億円【億】
金額とんでもない	五輪施設計画の「海の森水上競技場」の施設整備費および諸経費を含める経費の総額	1000 億円超【億】
	ある政治家の巨額借金問題の金額	8 億円【億】
	ある政治家の巨額借金問題の金額	8 億円【億】

本文脈に使われている用例の割合から見れば、「金額の数字」という（のは）「形容詞＋金額」という形で使われているものの中で、比較的共起しやすいのは「とてつもない金額」と「とほうもない金額」であり、こういった文脈で使われているのが「とてつもない金額」「とほうもない金額」の一つの特徴だと推測される。

今回収集して得られた「金額の数字」という（のは）「形容詞＋金額」という形の用例は延べ 26 例で多いとは言えないが、「金額の数字」の大きさと「形容詞＋金額」との使用傾向については、この 26 例の中で、それぞれの「金額の数字【単位】」「金額を表す対象」「形容詞＋金額」を表 6 にまとめる。

さらに、表6より、それぞれの「形容詞+金額」における【兆】が【億】【万】各単位の利用率について、表7のようにまとめることができる。

表7

	すごい金額	とてつもない金額	とほうもない金額	とんでもない金額
〈金額の数字イコール金額の程度が大きいこと of 文脈〉の用例数	5	6	12	3
【兆】の用例数 (使用率%) ⁽¹⁵⁾	0 (0%)	1 (16.7%)	6 (50%)	0 (0%)
【億】の用例数 (使用率%)	4 (80%)	4 (66.7%)	5 (41.7%)	3 (100%)
【万】の用例数 (使用率%)	1 (20%)	1 (16.7%)	1 (8.3%)	0 (0%)

表7より、「すごい金額」「とてつもない金額」「とんでもない金額」が最も共起しやすい金額は【億】単位であり、「とほうもない金額」が最も共起しやすい金額は【兆】単位で、しかも利用率の半分を占めている。

一方、金額の数字の単位側から見ると、【兆】の用例が確認されるのは「とほうもない金額」6例と「とてつもない金額」1例である。【億】の用例が確認されるのは「すごい金額」4例、「とてつもない金額」4例、「とほうもない金額」5例、そして「とんでもない金額」3例である。【万】の用例が確認されるのは「すごい金額」1例、「とてつもない金額」1例、そして「とほうもない金額」1例である。

以上の結果から、「金額の数字」という(のは)「形容詞+金額」という形で使われているものについては、その「金額の数字」の単位が【億】以上のものが【万】のものより圧倒的に多いことが分かる。なお、【兆】の用例が確認されるのは「とほうもない金額」と「とてつもない金額」だけであるが、「とほうもない金額」の半分が【兆】であることや「とてつもない金額」の【兆】の用例数が1例であることから考えれば、「とほうもない金額」と共起しやすい「金額の数字」が最も大きいと推測される。もちろん、本調査で得られた用例数が多いとは言えないため、それぞれの「形容詞+金額」と最も共起しやすい金額の数字の単位との傾向についてのより正しい判断は保留せざるを得ないが、この傾向は今後検証していく価値のあるものである。

本項の考察結果をまとめると、「金額の数字」という(のは)「形容詞+金額」という形で使われている文脈では、著しく共起

しやすいのは「とてつもない金額」と「ともうもない金額」であり、その中で共起しやすい「金額の数字」が最も大きいのは「ともうもない金額」である。

三十四 〈形容詞＋金額〉が代名詞的に使われる文脈〉

「形容詞＋金額」の後ろに助詞の「が」「の」「を」「は」「や」「に関する」が来るもので、〈形容詞＋金額〉が代名詞的に使われる文脈に分類されるものには次のようなものがある。

・「形容詞＋金額」が／の／を／は

支持率急降下に危機感を覚えた安倍首相が「白紙撤回」を宣言して仕切り直しとなったが、実はポート競技場や他の施設でも途方もない金額が計上され、計2兆円を超えてしまうという試算も明るみに出てしまった。

(朝日新聞 2015・09・15)

デフレは需要不足の状態である。なぜ需要が不足したのか？原因はたくさんあるが、(中略)原因は何であれ、需要不足状態なら、デフレ対策とは公共政策によって需要を追加することだ。小泉首相より前の内閣はいずれもそう考えて、国や地方公共団体が途方もない金額の借金をして公共事業を増やしてきた。

(毎日新聞 2004・01・06)

バブル経済を支えた金融機関はものすごい金額の不良債権を抱えて、破たんするところが相次いだ。

(朝日新聞 2000・01・01)

市政はいま、明らかに異常な路線を走っている。大事業をや

る場合、じっくりいろんな角度から考えてやるべきなのに、今の市政は正反対だ。とてつもない金額を軽率に決めて、市民生活を締め上げて金を浮かせる。

(朝日新聞 2000・04・24)

日本の国際電話は高い、とよく言われる。実際、日本から海外に国際電話をかけると、とてつもない金額を請求されることがある。

(毎日新聞 1997・10・07)

「マックスウェルなら、一千万ポンド(約二十三億八千万円)は出すだろう」(マーク・サッチャー氏) ◇マーク・サッチャー氏とはサッチャー前英首相の長男、マックスウェル氏とは世界的に輪を広げつつある英国の新聞王・出版王。この途方もない金額は、現在世界の出版界で最も注目を集めているサッチャー女史のメモワール(回想録)の出版料である。

(朝日新聞 1991・04・28)

・「形容詞＋金額」に関する

最近ではスポーツ報道の比率が格段に増えた気がする。気になるのは、一部の選手たちが手にする、途方もない金額に関する報道の仕方だ。

(毎日新聞 2008・12・08)

これらの〈形容詞＋金額〉が代名詞的に使われる文脈に分類される「形容詞＋金額」の用例がそれぞれの「形容詞＋金額」の全ての用例の中で占める割合については、表8のようにまとめることができる。

表8から、「形容詞＋金額」が代名詞的に使われるのが「ものすごい金額」「とんでもない金額」の一つの特徴であると見てとれる。

表 8

	とんでもない金額	とほうもない金額	とてつもない金額	ものすごい金額	すごい金額
全用例数	33	73	32	23	62
「が」	1	3	2	1	1
「は」	0	1	0	0	0
「の」	2	3	2	4	4
「を」	5	5	2	1	6
「に関する」	0	1	0	0	0
計	8	13	6	6	11
割合% ^①	24・2%	17・8%	18・8%	26・1%	17・7%

三五 〈形容詞＋金額〉が感想的・コメント的に使われる文脈〉

〈形容詞＋金額〉が感想的・コメント的に使われる文脈〉に分類されるものには次のようなものがある。

・「形容詞＋金額」(＝会話引用)
IRS [注：米国・内国歳入庁] から移転価格税制に基づく追徴課税を受けた企業のほとんどは、まず「途方もない金額」(家電メーカー)に驚き、戸惑う。

(読売新聞 1995・01・09)
徳島市が老朽化で解体される市立文化センターの代替施設として、JR徳島駅西側に建設を計画している新たな音楽・芸術ホールについて、市は31日、総事業費を141億円とする基本計画を公表した。(中略) 市議会まちづくり対策特別委員会会で示され、委員からは「とんでもない金額」「開館時期が遅すぎる」と批判が相次いだ。

(読売新聞 2018・06・01)

川柳の愛好家でつくる「川柳 雑草の会」の11月例会が23日に高松市内で開催された。この日の出席者11人に「解散・総選挙」をテーマに2句ずつ詠んでもらった。(中略) 出席者らは「選挙には700億円ぐらいかかるんだと」「すごい金額やな」と感想を語り合っていた。

(朝日新聞 2014・11・27)

・「形容詞＋金額」(＝一文)
主婦 内田秀子 (広島県 59)

安倍晋三首相は消費増税を見送って参院選を戦おうとしていますが、ちよつと待った。1人あたり約644万円にもなる国の借金があるのに、どうするつもりなの。5人家族だと3千万円以上の借金をいや応なしに背負うことになるんですよ。とんでもない金額。(朝日新聞 2016・06・17)

・「形容詞＋金額」と感慨深げ。
オリックス・佐藤義則投手 (四〇) 二千五百万円増の一億一千五百万円。現役最年長投手は初の大台到達に、「周りをみると大したことないが、やっぱりすごい金額」と感慨深げ。

(朝日新聞 1994・12・29)

・(会話的な文体において)「形容詞+金額」だ/です
(同じ意味・機能を持つ助動詞も含む) (活用形を含む)

大手銀行総務部長が筆者にその本音を語った(中略)

——やはり、相当量の情報雑誌の購読はあるのですか?

一つの特許に200億円——「世界の発明」とはいえ、対価として空前の支払いを命じた判決に、衝撃が広がった。(中略)自動車大手ホンダの両宮高一副社長は「すごい金額だな」。

A 「注：兵庫県」県の今年度の当初予算は一般会計で2兆1173億円。全国で5番目に大きな額です。補正予算は一般会計1804億円。これらのお金で、1年間の仕事を進めます。

Q すごい金額だね。実際に働く職員は何人くらいいるの?

(毎日新聞 2009・06・17)

以上の用例のように、文の中で「形容詞+金額」が感想的・コメント的に使われていると読みとれるものが「形容詞+金額」が感想的・コメント的に使われる文脈」に分類される。これらの「形容詞+金額」が感想的・コメント的に使われる文脈」に分類される用例が、それぞれの「形容詞+金額」の全ての用例の中で占める割合については、表9のようにまとめることができる。

表9

	とんでもない金額	とほうもない金額	とてつもない金額	ものすごい金額	すごい金額
全用例数	33	73	32	23	62
「形容詞+金額」が感想的・コメント的に使われる文脈」の用例数	8	11	3	2	22
割合(%) ¹⁸⁾	24・2%	15・1%	9・4%	8・7%	35・5%

「形容詞+金額」が感想的・コメント的に使われる文脈」に使われている用例の割合が最も著しいのは、「すごい金額」であり、次に「とんでもない金額」が挙げられる。「すごい金額」の3分の1以上が「形容詞+金額」が感想的・コメント的に使われる文脈」に使われており、「とんでもない金額」のおよそ4分の1が「形容詞+金額」が感想的・コメント的に使われる文脈」に使われていることが見てとれる。

この結果から考えると、「形容詞+金額」が感想的・コメント的に使われる文脈」に使われるということが、「すごい金額」の一つの特徴として指摘できる。また、「形容詞+金額」が感想的・コメント的に使われる文脈」に使われているのが「とんでもない金額」の一つの特徴だとも推測される。

四 まとめ

今回考察対象としたそれぞれの「形容詞＋金額」について、各〈文脈〉においての使用率および最も使われている文体を以下の表10のようにまとめることができる。

表10によると、考察対象とするそれぞれの「形容詞＋金額」の特徴については、以下のようにまとめることができる。

・「すごい金額」は、会話的な文体で最も使われており、用例の七割以上（74・2％）が会話的な文体に使われていることにより、「すごい金額」は口頭語的な語の性質が強いと推測される。一方、「すごい金額」が最も多く使われている文脈は〈形容詞＋金額〉が感想的・コメント的に使われる文脈（35・5％）である。「すごい金額」の用例の3分の1以上が〈形容詞＋金額〉が感想的・コメント的に使われる文脈〉に使われていることにより、「すごい金額」は感想的・コメント的に使われていることが一つの特徴だと推測される。

・「ものすごい金額」は文章語的な文体で最も使われており、用例の半分以上（56・5％）が文章語的な文体に使われていることにより、「ものすごい金額」は文章語的な語の性質が比較的強いと推測される。一方、「ものすごい金額」が最も使われている文脈は〈推定の文脈〉（26・1％）と〈形容詞＋金額〉が代名詞的に使われる文脈（26・1％）であり、どちらも「ものすごい金額」の用例の4分の1以上の使用率を占めている。この点から考えれば、「ものすごい金額」は

表10

	すごい金額	ものすごい金額	とてつもない金額	とほうもない金額	とんでもない金額
最も使われている文体（使用率％）	会話的な文体（74.2％）	文章語的な文体（56.5％）	文章語的な文体（46.9％）	文章語的な文体（61.6％）	会話的な文体（51.5％）
〈推定の文脈〉の使用率（％）	14.5％	26.1％	3.1％	9.6％	30.3％
〈ある基準においては金額の程度が大きい文脈〉の使用率（％）	9.7％	17.4％	25％	16.4％	9.1％
〈金額の数字イコール金額の程度が大きいことの文脈〉の使用率（％）	8.1％	0％	18.8％	16.4％	9.1％
〈{形容詞＋金額} が代名詞的に使われる文脈〉の使用率（％）	17.7％	26.1％	18.8％	17.8％	24.2％
〈{形容詞＋金額} が感想的・コメント的に使われる文脈〉の使用率（％）	35.5％	8.7％	9.4％	15.1％	24.2％
（以上の〈文脈〉以外に未分類のもの使用率（％） ⁽¹⁹⁾	14.5％	21.7％	24.9％	24.7％	3.1％

〈推定の文脈〉に使われていることや、代名詞として使われていることが特徴だと推測される。

・「とてつもない金額」は文章的な文体で最も使われており、用例の半分近く（46・9％）が文章的な文体に使われている。一方、「とてつもない金額」が最も使われている文脈は〈ある基準においては金額の程度が大きい文脈〉（25％）であり、「とてつもない金額」の用例の4分の1ぐらいが〈ある基準においては金額の程度が大きい文脈〉に使われていることにより、ある基準において金額の程度が大きいことを表すのに使われることが「とてつもない金額」の一つの特徴として指摘できよう。

・「とほうもない金額」は文章的な文体で最も使われており、用例の六割以上（61・6％）が文章的な文体に使われていることにより、「とほうもない金額」は文章的な語の性質が比較的強いと推測される。一方、「とほうもない金額」が最も使われている文脈については、本稿の考察結果から見ると、〈形容詞＋金額〉が代名詞的に使われる文脈（17・8％）が最も使われていると見られるが、二番目に使われている〈ある基準においては金額の程度が大きい文脈〉（16・4％）と〈金額の数字イコール金額の程度が大きいこと〉の文脈（16・4％）や、三番目に使われている〈形容詞＋金額〉が感想的・コメント的に使われる文脈（15・1％）とは使用率（17・8％・16・4％・15・1％）に大差はないことから考えれば、「とほうもない金額」がどのような文脈に使われやすいなどの特徴はまだ未詳である。

・「とんでもない金額」は会話的な文体で最も使われており、用例の半分以上（51・5％）が会話的な文体に使われていることにより、「とんでもない金額」は口頭語的な語の性質が比較的強いと推測される。一方、「とんでもない金額」が最も使われている文脈は〈推定の文脈〉（30・3％）であり、「とんでもない金額」の用例の三割以上が〈推定の文脈〉に使われている。また、二番目に使われている文脈は〈形容詞＋金額〉が代名詞的に使われる文脈（24・2％）と〈形容詞＋金額〉が感想的・コメント的に使われる文脈（24・2％）であり、どちらも「とんでもない金額」の用例の4分の1近くの使用率を占めている。この三つの〈文脈〉の使用率を合わせると78・7％になり、「とんでもない金額」の用例の八割近くを占めていることである。この点から考えると、〈推定の文脈〉に使われていることや、代名詞として使われていることや、感想的・コメント的に使われていることが「とんでもない金額」の特徴だと見てとれる。

注

(1) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を利用すること、¹「すごい渋滞・すさまじい渋滞・ものすごい渋滞・とてつもない渋滞・とんでもない渋滞・はげしい渋滞・ひどい渋滞」「いちじるしいスピード・おそろしいスピード・すごいスピード・すさまじいスピード・すばらしいスピード・ものすごいスピード・とてつもないスピード・とんでもないスピード」「いちじるしい痛み・すさまじい痛み・ものすごい痛み・とて

つもない痛み・とんでもない痛み・はげしい痛み・ひどい痛み・
はんばない痛み」「すごい暑さ・すさまじい暑さ・ものすごい
暑さ・たまらない暑さ・とてつもない暑さ・はげしい暑さ・ひ
どい暑さ」などの用例を得ることができる。

(2) 2020年9月に用例を収集した。

(3) 筆者は、これまでに国語辞書の用例を検討する中で、「形容詞
＋被修飾語」の用例は主に肯定表現で使われていると想定して
いる。そのため、本稿でも、三新聞社の用例の中で、「すごい
金額じゃない」「途方もない金額ではない」などのように、「
形容詞＋金額＋否定表現」というような用例は用例数に数えな
いこととする。また、「とんでもない金額の生命保険が掛けら
れた」ということはなかった(読売新聞2003・10・10)とい
う用例も上述した否定表現に該当することとする。

(4) 用例は三二に示す。

(5) 用例は三二に示す。

(6) 用例は三三に示す。

(7) 用例は三四に示す。

(8) 用例は三五に示す。

(9) 「仮定条件の推定」の用例数÷全ての用例数×100%

(10) 「主に常識的な考え方で推定」の用例数÷全ての用例数×
100%

(11) 「推定の文脈」の用例数÷全ての用例数×100%

(12) 「ある基準においては金額の程度が大きい文脈」の用例数÷全
ての用例数×100%

(13) 「金額の数字イコール金額の程度が大きいことの文脈」の用例
数÷全ての用例数×100%

(14) 本稿においては、金額の数字の単位を【兆】【億】【万】に分
けて見ることとする。

(15) その単位の用例数÷(金額の数字イコール金額の程度が大き
いことの文脈)の用例数×100%

(16) 「(金額の数字」という(のは)「形容詞＋金額」＋が／の／
を／は(などの助詞)」という形の用例は、明確に「金額の数字
」が出てくる上に、その「金額の数字」が金額の大きいこと
に結び付けられているため、三二三の「金額の数字イコール金
額の程度が大きいことの文脈」に分類され、三四四の「形容詞
＋金額」が代名詞的に使われる文脈」に分類されない。

(17) 「(形容詞＋金額」を代名詞的に使われる文脈」の用例数÷全
ての用例数×100%

(18) 「(形容詞＋金額」が感想的・コメント的に使われる文脈」の
用例数÷全ての用例数×100%

(19) 以上の各「文脈」の使用率を合わせた数字(%)を100%
で引く計算で得られた使用率である。

主要参考文献

- 田忠魁・泉原省二・金相順(1998)『日本語類似表現のニューア
ンスの違いを例証する 類義語使い分け辞典』研究社
- 中村明・芳賀綾・森田良行(2005)『三省堂 類語新辞典』三
省堂
- 松井栄一(2008)『ちがいがわかる 類語使い分け辞典』小学
館
- 蕭惠文(2020)「『量』の程度が大きい意味を表す」形容詞につい
て『立教大学日本語研究』26

(しゃお ほういうえん 大学院博士課程後期課程在学生)